

都議会通信 vol.6

都民ファーストの会東京都議団 東京都議会議員（西東京市選出）

桐山きりやまひとみ

- ・ 都民ファーストの会東京都議団 幹事長代行
- ・ 都議会厚生委員会副委員長 ・ オリンピック・パラリンピック推進対策特別委員会委員
- ・ 西東京市議会議員5期（合併特例で6期） ・ 元テレビ体操アシスタント
- ・ 東京女子体育大学体育学部卒業



皆様のご意見をお聞かせください。 発行元：都民ファーストの会 東京都議団 桐山ひとみ 〒202-0012 東京都西東京市東町2-16-25-203
tel 070-4480-4498 fax 042-438-6233 e-mail kiri@kiri-yamahitomi.tokyo

都民ファーストの会東京都議団、桐山ひとみ都議会議員は東京都令和3年度において、特に以下厚生新規事業の実現に尽力いたしました。

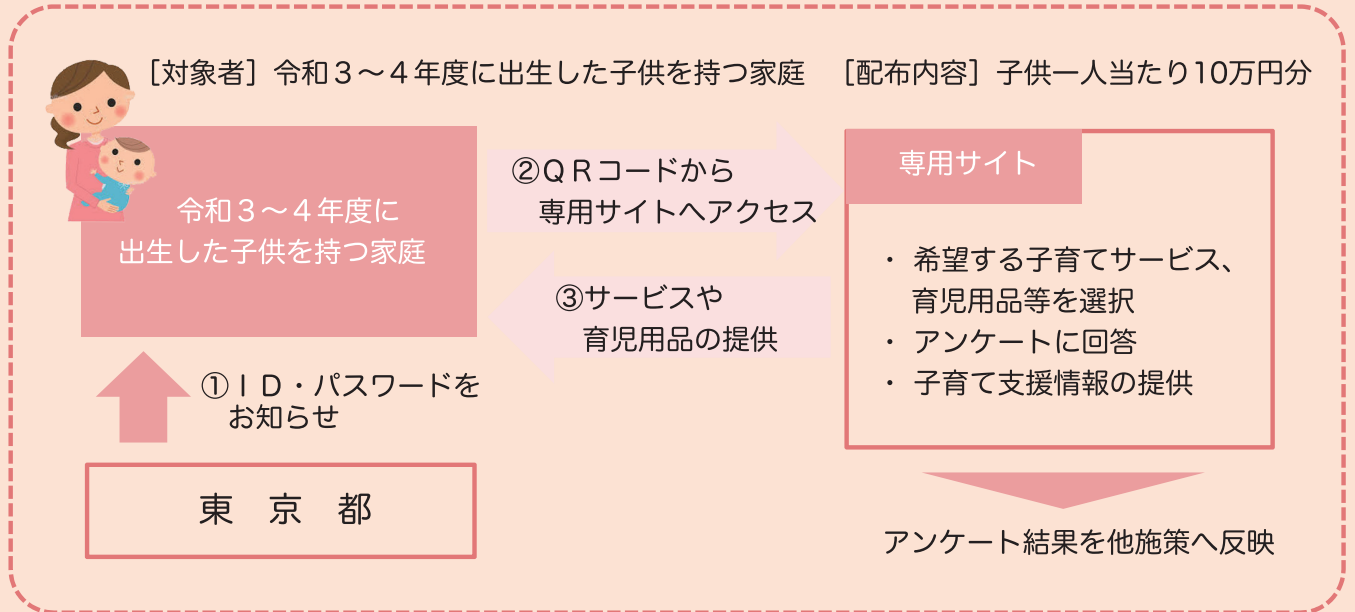


定例会での質疑の様子

新 東京都出産応援事業～コロナに負けない～【福保】

101億円（新規）

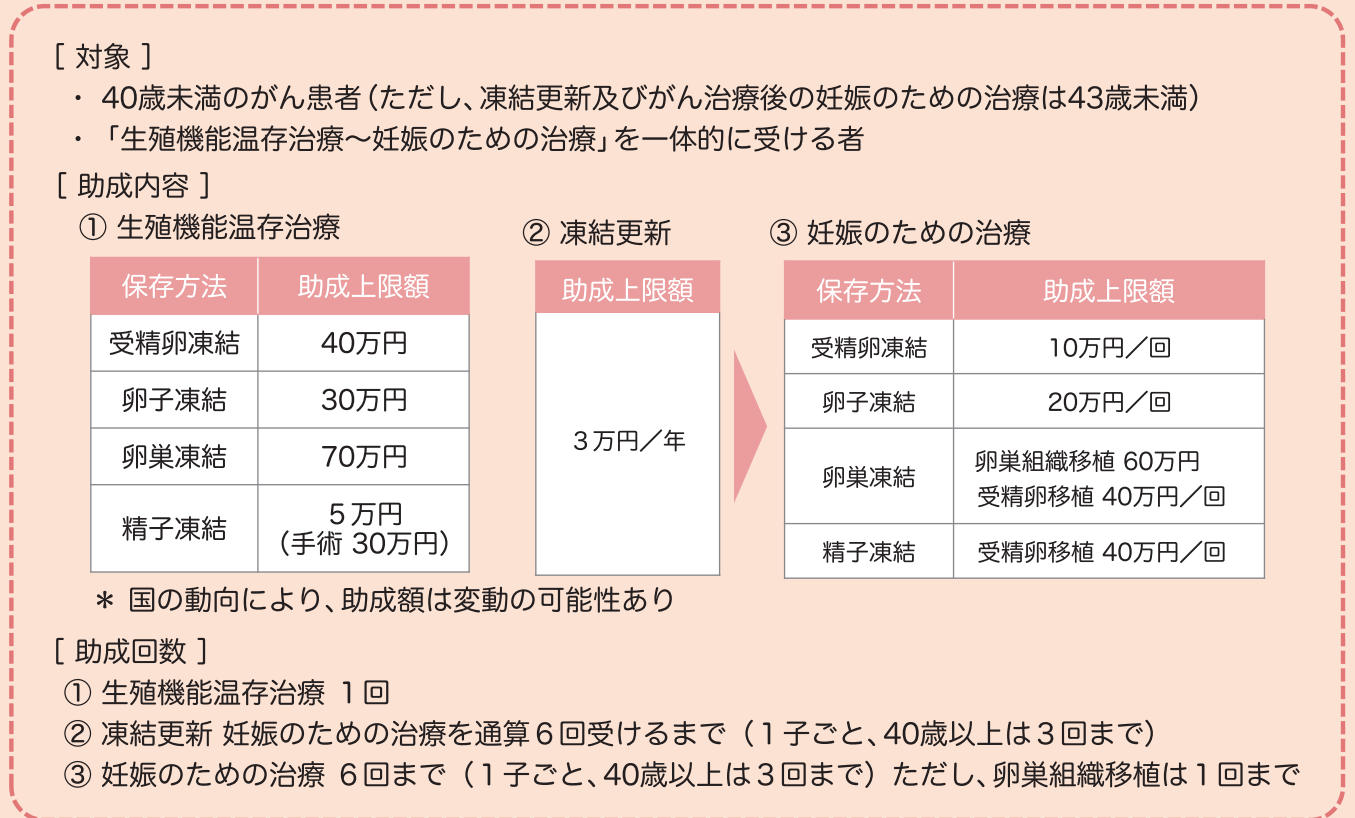
コロナ禍において、これから子供を産み育てたいと考えている家庭を応援・後押しするため、子育て支援サービスの利用や育児用品等の購入に係る経済的負担を軽減するとともに、アンケートにて具体的な子育てニーズを収集・把握し、今後の施策へ反映していくものです。



新 若年がん患者生殖機能温存治療費助成事業【福保】

1億円（新規）

がん治療により、生殖機能が低下するまたは失うおそれがある若年がん患者に対して、生殖機能温存治療（がん治療後に子供を授かる可能性を残すために、がん治療の開始前に、生殖医療技術を使って、妊孕能（にんようのう：妊娠する能力）の温存を試みる）等に要する経費を助成する。



桐山ひとみ・都議会第1回定例会一般質問ダイジェスト(令和3年2月26日)

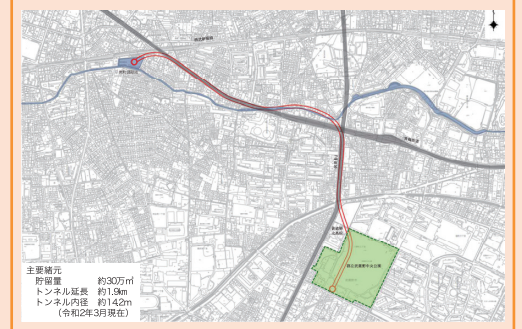
桐山ひとみは、地域のみなさまからの意見や要望をお聞きする中で、問題や課題をしっかりと把握し、都議会での質疑を通して地元の要望をしっかりと伝えるべく、地元西東京の課題を中心に質問を行いました。

1 風水害対策について(石神井川の豪雨対策)

(桐山) 近年記録的な豪雨による水害が全国で多発し、東京でも令和元年の台風19号では多摩地域を中心に深刻な被害が発生しました。

2月に公表した「未来の東京」戦略(案)において「台風・豪雨へのハードソフトの備えをさらに高める」取組として護岸や調節池を位置づけ、西東京市を流れる石神井川の上流部では、今年度貯留量約30万㎡となる新たな調節池を事業化することを昨年の第一回定例会の一般質問で確認させていただき現在基本設計を進めています。こうしたハード整備対策に加え、地元からは、河川監視カメラの設置要望もあり、ソフト対策の充実も合わせて実施していく事が重要です。そこで石神井川上流部における豪雨対策の今後のとりくみについて伺います。

石神井川上流第一調節池(仮称)ルート案



(東京都) 水害から都民の命と暮らしを守るためには、豪雨に対して、大きな効果を発揮する調節池整備などのハード対策に加え、住民の避難につながるソフト対策を進めることが重要です。石神井川上流部におけるハード対策としては、護岸工事に加え、今年度事業化した新たな調節池の整備に向け来年度は基本設計を踏まえた関係機関との協議調整等を本格化する。

ソフト対策としては、地元市の要望等を踏まえ河川監視カメラを西東京市内2か所(向台、柳橋)で設置公開する。ハードソフト両面から洪水対策を進め、水害に強いセーフティーの実現に向け取り組む。

2 下水道・白子川1号幹線の取組について



定例会での質疑の様子

(桐山) 水害対策として、下水道事業における雨水・浸水対策も急務な課題です。西東京市では、これまで、一定規模以上の宅地開発時に、開発区域内に雨水浸透施設等の整備を義務付け、また、平成29年度に白子川上流六号雨水幹線の一部整備等により雨水貯留施設を整備するなど、白子川支川周辺での溢水対策を行ってきています。しかし、その後も白子川支川では、台風接近時や集中豪雨時に支川周辺で道路冠水等が度々発生しており、西東京市では白子川上流六号雨水幹線未整備区間の整備検討を進めており、下流の接続先である白子川一号幹線の事業化に対して、周辺住民からの大きな期待を寄せています。

白子川1号幹線は、都市計画道路、放射7号線の道路整備に合わせ、地下に東京都が施工するトンネル工法による整備が予定されており、整備に必要な発進立坑や到達立坑の位置などの検討が行われている一方で、都市計画道路の土地取得の進捗をみながら進めるとも聞いており、着工が遅れるのではないかと心配もあります。

災害はまったなしであり、下水道工事を先行する手法として、都市計画道路予定地の土地所有者や土地使用者から工事の承諾をいただき、地下で深く掘る下水道を先行して整備することも可能ではないかと考えますが、都の白子川1号幹線の取組状況について伺います。

(東京都) 白子川一号幹線の取組状況についてですが、下水道局では早期に浸水被害を軽減するために地区を重点化し幹線などの施設整備を進めており、白子川一号幹線は西東京市の浸水被害を軽減する重要な幹線であり、この幹線は西東京市と練馬にまたがる都市計画道路下に整備し雨水を白子川へ放流するものである。

整備にあたって、都市計画道路の進捗状況に合わせてるとともに、ルート沿いに大規模な工事用地が必要になることから、現在関係者と協議を進めている。今後は工事用地等の確保に合わせ実施設計等を速やかに進め早期工事着手を目指していく。

3 AYA世代のがん患者に対する生殖機能温存治療に

(桐山) 現在では、「がんは治る病気」と言われるようになり、小児・AYA世代の10年相対生存率は平均約5割と言われています。

がん患者は告知から治療まで、限られた時間の中で多くの選択をこなさなければなりません。特に、小児・AYA世代は、社会経験や周囲の方の闘病経験もなく、無知のまま自分の将来に絶望して、現実を受け入れるのに多くの時間がかかります。

治療によっては、卵巣や精巣への影響などにより子供をもつことが困難になる場合もあり、がんと診断された女性のQOLの向上・維持を考えるなかで、妊孕性の温存治療は重要です。しかし、卵子や精子の凍結保存にかかる費用、保管料にその更新料、がん治療が終了した際の妊娠の為の費用などは保険適用外で、高額な患者負担となるため、自治体や国でサポートが必要です。

わが会派は、平成30年11月厚生事務事業質疑、平成31年第一回定例会一般質問、そして令和元年第三回定例会代表質問にて、AYA世代のがんに対する妊孕性温存について、他の自治体での支援の取り組みを調査するなど実態の把握に努め、AYA世代のがん患者が必要な治療と支援が受けられる体制の構築を図ることに加え、生殖機能温存の助成を検討すべきと、度重なる質問してきました。

AYA世代のがん患者が将来子どもを持つことに希望をもってがん治療に取り組めるよう生殖機能温存助成支援していくことが必要であると考えますが見解を伺います。

(東京都) AYA世代のがん患者が子どもを持つことに希望をもってがん治療に取り組めるという、生殖機能温存治療に係る環境整備が必要。都は都内の医療機関や患者、家族への調査や自治体への調査を行い支援策を検討してきた。この結果を踏まえ、生殖機能温存治療に加え、受精卵などの凍結更新妊娠の為の治療までを一体的に支援する都独自の制度を令和3年度から開始する。

また、患者や家族が生殖機能温存治療に関して正しく理解し判断できるよう、意思決定支援の取組を実施してまいります。



定例会での質疑の様子

おしゃべりカフェ開催中!

日時: 毎月1日の17時~19時

場所: 桐山ひとみ事務所

西東京市東町2-16-25-203

都政相談・意見交換会を目的に「おしゃべりカフェ」を開催しております。

どなたでも参加出来ますので、お気軽にお立ち寄りください。

ご都合に併せて開催時間内にご自由にお越し下さい。

皆で語り合しましょう!

